

# 素敵一滴



ひしお通信 23号 2009年6月発行  
編集発行：勝山文化往来館ひしお  
岡山県真庭市勝山162-3 〒717-0013  
TEL&FAX 0867-44-5880  
URL: www.18.ocn.ne.jp/~hishio/

## 守・破・離

備前焼の歴史は千年以上の長きに渡り伝統工芸として、先人達の経験・技術・技法を今日に継承致しております。陶土に対する知識・制作に関する技術そして焼成のための窯の構造・焼成技法などいろいろな知識が守り継がれ今日の備前焼を形成しております。

しかし伝統とはその時々必然性のもとに生ずるものであります。現在の生活様式や美意識を考えますと伝統的な要素を守りつつも、今日に息づく物づくりが必要になって参ります。つまり、伝承された形式を一度打破し、同時代性や未来に向けた創造が求められます。物づくりにとって最も困難な事が新たな創作・創造であります。模倣はある程度の技術で制作出来ますが、自分なりの形を創作する事は私にとりまして本当に不断の

努力と感性が必要であります。

自分なりの物づくりが出来て初めて継承された伝統を離れ、現在の伝統を形成する事が出来ると考えております。

やきもの作りの仕事を始めて三十六年を過ぎましたが、守の時代に十年、破に至りますのに三十四、五年を要し、離となり、自分なりの創作の仕事が出来るようになりましたのは、ここ二、三年であります。物づくりとは本当に長い年月を要します。(山根義秋)

## 備前焼といけ花展を終えて

晴天に恵まれた五月の連休に文化往来館「ひしお」にて旭窯山根義秋氏と共同出展という機会を得て多くの方に会場まで足を運んで頂きました。

山根氏よりコラボレーションのお話を一度はお断り申し上げたのですが結果的にはごいっしょさ

て頂く事になり作品を仕上げる為の時間を充分にとる事が出来ないまま満足の出来る仕上げではありませんでした。日頃目にしている植物を始め多くの物に触発されいけばなを通して表現出来る幸せ感を楽しむ事が出来ました。協力して下さった知人友人にお礼を、特に重い腰を上げるのに後押しをして下さった山根氏に感謝しております。

又、「ひしお」のスタッフの皆さまにはこまやかな気遣いをして頂き気持ちよく会期を終える事が出来ました。地方文化に対するひしおの今後の取組に期待し紙面をお借りしお礼申し上げます。

(いけばな小原流 後安藤江)



## 世代間交換エッセイ

### 第四回 【つゆ】

▼沖縄では、もう梅雨に入ったと報じていましたが、このあたりに間もなくやってくることでしょ。打ち続く雨に気も減入りがち

になります。ちょっと視点を転じてみると梅雨もまたよしの思いがあります。

花を栽培したり、眺めたり、時には気入りの花の小枝をびんに挿したりして楽しんでる私ですが、この時期には、紫陽花・ほたるぶくろ・空木・笹百合などが咲くのを待っています。空木は「うの花」と言ったつげと思いがながらタニウツギ・ハコネウツギ・梅花ウツギ・サラサウツギなど思い浮かべていたら十代の頃教わった過去の

## うの花の絶え間たかかん闇の門

の句が浮かんできました。

花々を愛でているうちに梅雨もあがり、暑い夏へと季節が巡っていくことでしょう。(70代女性)

▼何かと雨の降る日が多いこの季節。長靴姿のちびっ子をよく見かける。その姿は、私をとっても懐かしい気持ちにさせる。

幼い頃の私は、長靴が大好きだった。それもひまわりの様な真っ黄色の。当時の私を良く知る人たちは、「トレッドマークだったよね。」と言う。

雨の日も、晴れの日も、天気はおかまひなしで履いていた。泥が散っても怖くない、草むらに入っても痛くない、長靴を履いた私は無敵だった。それさえ履いていれば、大冒険だってできそうな気持ちになれる魔法の靴。ちよっぴり内気だった当時の私には、勇気の出るアイテムだったんだらう。

大きくなるにつれて、私は魔法の靴を履かなくなつた。格好悪いというのもあったけど、もう一人でも大丈夫と思つたのかな。

履いたら元氣と勇気が出てくる靴。今そんな靴があったら、履いてどこにいくだろう。大冒険もいかもしれない。(20代女性)

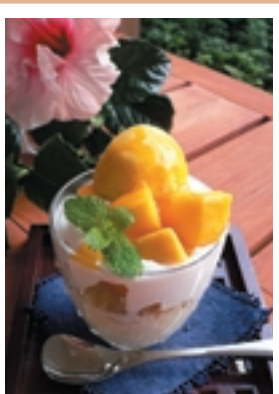
※世代の差のある二人(2030代と7080代)の方の投稿をおまちいたしております。(一人400字)ひしお通信編集部 ●次回のテーマ「たび」

## 販売中 勝山文化往来館ひしお 厳選オリジナルブランド

ひしお厳選のお醤油が2種類できました。国産の小麦と自然塩を使い、二年間熟成させた長期熟成しようゆ。是非、真庭・勝山のお土産品にご利用ください。



- こいくち醤油：1本 3000円
- うすくち醤油：1本 3000円



マンゴーパフェ 580円  
マンゴーソース、マンゴーアイスクリーム、マンゴーの果肉たっぷりの夏限定パフェの登場です。  
cafe うえのだん  
うえの店主

7月・8月の催しのごあんない

【開催中】

田中直子  
木の銅版画展



日時◆6月18日(木)～7月5日(日)  
午前10時～午後4時30分  
会場◆勝山文化往来館 ひしおホール  
入場無料

Ｔシャツアートで遊んじやおう  
今年もやってきた！好評夏休み企画  
みんなでオリジナルＴシャツを作ろう！  
日時◆7月26日(日)

第1回 午前10時～正午  
第2回 午後2時～4時  
会場◆勝山文化往来館 ひしおホール  
参加費◆1人2千円  
(Ｔシャツ1枚、その他材料代込み)

※1回につき20名定員  
締切日◆7月16日(木)

【ひしお講座 8月開講予定！】

美作地域の文化、クラフト、アート、の交流をより一層感じれる拠点を皆様と共につくっていききたい。その想いから「ひしお文化交流講座」を開講予定です。

●催しに関するお問い合わせは ひしお事務局 ☎44-5880まで

◆今年の春はこんなことがありました



5月23日～30日  
「アメリカ公民権運動・ハーレム写真展」が開催されました。24日にはギャラリートークがありました。



6月7日「川下笑里歌ハーブコンサート」開催。

勝山夏アート'09

くまちめぐる木彫フォークアート展

日時◆8月8日(土)～25日(火)  
午前10時～午後4時30分  
会場◆勝山文化往来館 ひしおホール  
勝山地区町並みの家屋  
入場料◆ひしおホール：300円  
勝山地区町並み：無料

※展示販売いたします。

大屋町の木彫作家(但馬木彫)について  
但馬木彫は松田一戯をはじめとして松田政斗、松田京子らからなる木彫集団です。彼らが創りだす木彫フォークアートは、かわいもの、生意気なもの、ちょっと不思議なものといろいろです。作品には但馬という土地柄を写したような素朴で温かい色使い風合いが共通しています。



◆読者投稿◆ あなたからのご投稿もお待ちしております

「備前といけばな」展に  
寄せて

このたびの案内のハガキを手にした時、今までの山根さんの作品とは違う新しいデザインの写真に早く実物を見たいと展覧会が待たれました。

初日、いよいよその作品の前に立ちました。彼の口から、ぼそぼそっと「マチスの絵の……」という言葉がもれました。「あ、あの輪になって踊っている肉体！マチスの『ダンス』ね。」と私はさけび、彼はにこにこしてうなづきました。「そういう発想ができるのはさすが山根さん。うれしいな。」彼のアトリエには文学書や世界の美術書がびっしりと並んでいます。これからはますますその作風が期待されます。

会期中の五日間は、季節の変わりゆくのが目ざましく、後安さんのトクサのいけばなアートが、初日には、春の女神の佐保姫が装裾引



くさまを連想させたのですが、終わり頃になると、初夏の薫風が吹き抜けてゆくのに見えてきました。そして今、撮って来た写真をながめながら感じているのは、万葉のエネルギーシユな恋の歌に通じるもの、相手の存在が自分の心に乗っかってくるような、その心の立体形ではないかと――。

……妹は心に乗りにけるかも  
(トモトモ)

第七劇場の余韻



5月16日・17日の午後、第七劇場の方々が夜の公演に向けて準備を進めている。そのざわめきが肌で感じ、一観客として気分が高まっていた。2年前の「班女・葵上」は、今でも私の脳裏に残っている。そして今回の「オツベルと象」。暮れゆく山並みを背景に雨の中、初日の演劇がはじまってきた……そして宮澤賢治の世界へ引き込まれていった。また見たいな。ひしおの中庭で！ (taki)

〜ひろこのロンドン便り〜

久しぶりに父の遺したレコードを聴いた。プラハ四重奏団によるボロディン弦楽四重奏曲。20年以上も前の夏、父と母が二人でロンドンに来てくれた。夕食を終えた後もまだ明るい部屋で、わたしのレコードとテープをみていた父がとりだしたのがこの曲であった。「どうしたん、これ」と聞く父に、「好きなんじゃ」と答えた。「僕も大好きなんじゃあ！」と驚いた、とびきり嬉しそうな父の顔は、わたしの心の宝物。

わたしは、音楽会にいった後、よく父に手紙を書いた。メシアンの「時の終わり」に感動したわたしに、「あまり好きになつてほしくない曲です」という返事がきたことを覚えてる。父は亡くなる前の数年間入院を繰り返し、わたしは出来るだけ都合をつけて帰ってきた。ベッドの傍でも音楽の話をしてきた。お葬式をすませロンドンに帰ってしばらくたった後、音楽会にいった。感動を伝えたくていつものようにペンをもった、でも、もういないんだ。痛烈な喪失感に締めつけられた。もうすぐ13年になる。「特に好き」といった2番の美しい旋律を聴きながら、ロンドンでわたしが撮った笑顔の父に乾杯！

(館長 辻 ひろこ)